

きもちのいいへや

埼玉県 蓮田市立黒浜小学校 一年

中村 なかわら
真奏 まかな

それは、いつもと、おなじひのことだった。ほくと、にいちゃんといもうとと、いつものいいあい、とりあいのケンカをしていときだった。

「いいかげんにしなさい。もう、まいにち、なんですぐにケンカになるの?」

「だって、にいちゃんが。」「ちがうだろ、おまえだろ。」「まおじゃないよ。」

3 3 3、なすりつけあう。

「へやも、ちらかりほうだい、やりっぱなしだし。ママ、まいにち、つかれちゃった。もう、かたづけは、やらないからね、じぶんたちのことは、じぶんでやってね。」

また、ママのおせつきょうが、はじまった。いつものことだから、みぎからひだりに、ながして、ほくらは、そのままかたづけず、またあそびだす。

だって、いつもママが、さいごは、かたづけてくれるからね。ほついても、だいいじょうぶ、と、なんともおもってなかったら、このひのママは、ちがった。

ほんとうに、かたづけけない。つぎのひのあさになっても、へやは、ちらかったまま。

あれ、おかしいな。でも、がっこうから、かえってくれば、きれいなになっていようとおもっていた。

けれど、かえってきて、へやは、ちらかったままだった。「にいちゃん、ママおかしいよね。かたづけられないよ。」「うん、

すごい、おこっている。」「どうするか。」「といいつも、ほくらは、あそびケンカをしていた。

そして、よるには、さらに、へやは、ちらかりほうだいになっていった。

これでは、さすがにママが、かたづけるだろうとおもいきや、ママはみぬふりをしている。なんだか、ちらかったままのへやは、おちつかないし、イライラしてくる。

にいちゃんも、おなじみたいで、「なんか、こんなきたないへやは、もうガマンできない。よし、3 3 3 3 3、かたづけよう。」「ほくらは、3 3 3 3 3、あったところに、かたづけはじめた。メダル、カード、ままごとどうぐ、こまかいものがおおく、たいへん。

「はあ、つかれた。かたづけて、たいへん。」「へやが、きれいにかたづいたら、ふしぎと、こころが、かるくなつて、きもちがいい。

いつも、ママが、きれいにしてくれていたのは、へやだけじゃなくて、きもちもだつたんだね。

「ママ、いつも、かたづけなくて、ごめんね。きれいなへやにしてくれていて、ありがと。へやが、かたづいていると、きもちがいいね。」「いつもは、すなおにいえない「ありがと。」「が、すんなりといえた。

これも、かたづいて、きれいなへやのおかけかな。ママ、いつも、ありがと。」「